

抄録：

手術用手袋のピンホール発生は着用時間に左右される

著者：Lars Ivo Partecke (MD); Anna-Maria Goerdts (MD); Inga Langne (MD); Bernd Jaeger (MSc, PhD); Ojan Assadian (MD, DTMH); Claus-Dieter Heidecke (MD, PhD); Axel Kramer (MD, PhD); Nils-Olaf Huebner (MD)

背景

手袋穿孔の危険性は、外科手術の時間や種類などに依存することが分かっている。手術用手袋が意図するバリア機能を維持するためには、術中 2～3 時間ごとに手袋を交換することが推奨されているが、遵守されていないことが多い。この研究の目的は、手袋を定期的に交換することの推奨を裏付けるために、手袋の着用時間と穿孔の間での相関関係を証明することである。

概要

一般外科手術における術者および手術室看護師が使用した全ての手袋を、着用時間に基づき 3 つのカテゴリーに分類し、穿孔について調べた。手術の種類、着用者の役割、手袋へのストレスの程度、使用した器具、および手術部位も考慮に入れた。

結果

898 双の手袋のうち 19% (171) に見逃された微小穿孔があった。穿孔率は、着用時間 90 分以内の手袋で 15.4%、91～150 分の手袋で 18.1%、150 分以上の手袋で 23.7% であった。穿孔率が最も高かったのは術者 (23%) であり、第一助手 (19%) および手術室看護師 (20.5%) よりも多かった。

結論

90 分ごとの定期的な術中交換は、見逃される微小穿孔の危険性を最小限に抑え、ひいては微生物が伝播する危険性を減らす上でも効果的である。二重手袋の着用もまた、穿孔の発生を効果的に低減させる。微小穿孔が誘発される主な要因は、術中に手袋にかかる機械的ストレスの量である。

参考文献 1. Partecke et al., Incidence of Microperforation for Surgical Gloves Depends on Duration of Wear *Infect Control Hosp Epidemiol* 2009;30:409-414

この抄録は Ansell Healthcare LLC によって執筆され、提供されています。Ansell Healthcare は、発表された研究をできる限り正確に要約する努力を払っていますが、要約の正確さについての表明は行いません。追加情報については、実際の調査結果を参照してください。

Ansell Healthcare Products LLC
111 Wood Avenue, Suite 210
Iselin, NJ 08830 USA
Tel: + 1 732.345.5400
Fax: + 1 732.219.5114

www.ansell.com

Ansell